

# うえだ 環境市民会議 News

第28号  
ニュース

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行：うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16  
上田市生活環境課内

電話：0268-23-5120

FAX：0268-22-4127

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

## みんなの力で成功した「うえだ環境フェア」

うえだ環境フェア実行委員長 村山顕

去る10月18日(土)晴天の下、上田創造館で第21回うえだ環境フェアが開催され、地域の多くの皆さんが、来場してくれました。本当にありがたいことです。環境フェア全体の入場者は1,000人を超えたのではないかと見られています。アンケートの回答者は小学生を含む800人余の協力を得られました。環境問題への関心の高さをうかがい知ることが出来ます。

私たち「うえだ環境市民会議」のメンバーの出展は、パネル展示を中心に、活動内容などを紹介すると同時に、体験コーナーとして、人力発電実験装置や冷蔵庫

開閉実験装置、また太陽光発電パネルの展示や食料問題を扱った紙芝居の発表など盛りだくさんの紹介ができました。

これからは、真田、武石、丸子地区の皆さんにも今以上に協力してもらい、上田市の環境にかかわる課題を「うえだ環境市民会議」に結集しながら、協力、協働できればいいなと思っています。

## 信州エコ大賞・奨励賞を受賞

環境 ISO ネットワーク 香遠英俊

うえだ環境市民会議の環境 ISO ネットワークに参加している小柳産業株式会社が9月18日に社団法人



▲うえだ環境フェア

長野県環境保全協会から「信州エコ大賞・奨励賞」を頂きました。エコ大賞は県内で活動している企業や団体の環境保全活動に対して贈られるもので、上田市内では「上田地域消費者の会」などに次いで6件目となります。

今回の受賞は永年にわたり上田市の資源回収に携わってきたこと、保育園から大学まで行っているリサイクル講演会や工場見学による啓蒙活動が評価されたものです。小柳社長は「地域に密着した活動が評価され、本当にうれしく思う。これからも地域や学校のお役にたてるよう仕事をしていきたい。」と嬉しそうに語っていました。

## 地域からの地球温暖化対策

ごみ減 三井幸子

9月8日～9日、富山県におけるレジ袋有料化の取組みを視察してきました。

4月1日から富山県はスーパーのレジ袋を有料にしました。「レジ袋ください。」と言うと、5円で買えます。富山でも消費者団体を中心にマイバック運動を進めてきましたが、20%前後という状況が続きました。ここは行政の出番！知事のリーダーシップのもと、事業者の参加を求め、協議会の設立にこぎつけたのです。これまでも「とやまエコライフ・アクト10宣言」、2年越しで議論を重ねた「水と緑の森づくり税」の創設など、きめ細かく県民と話し合ってきたことがレジ袋有料化の成功のポイントだったと思います。4月～6月の調査でマイバック持参率92%、その後も増えているそうです。視察の帰りに寄ったスーパーでマイバックを持たない人を探すのは大変でした。

レジ袋の削減は、生活スタイルの見直しの一歩です。みんなが少しずつ利便性を我慢することで、豊かで美しい自然環境が守られればうれしいことです。

## 更なるレジ袋削減に向けて

うえだ環境市民会議議長 山口春香

このたび、ごみ減チームでは毎月5日の「ノーレジ袋デー」に合わせてレジ袋削減の店頭啓発活動に取り組みました。初回の11月5日は、ジャスコ上田店にて上田地域消費者の会、上田市連合婦人会、行政の御協力をいただき「マイバック持参」を呼びかけるとともに、チラシの配布、レジ袋の有料化についてアンケート調査をさせていただきました。

初めての取り組みでしたが、多くの方の協力とお客様の声をお聞きできたことは、とても意義のある活動であったと思います。これを機に他のお店等にも御協力をお願いし、活動の輪を広げていきたいと思います。

## 【お客様の声】

60代男性：「マイバック持参は当たり前のこと、気持ちがあれば誰でも出来ると思う。俺だってできるんだから。」

50代女性：「いつも持って来るのに今日は忘れた。」

30代女性：「車の中にあるんだけど…。」

40代女性：「マイバックは持っているが、今は使わない。レジ袋の無料の間は、レジ袋を利用して、有料になればマイバックを使う。レジ袋は便利。」

80代御夫婦：「いつもマイバックを使っているよ。買い物が多いときはマイかごを持ってくると店員さんが親切にきちんと詰めてくれる。孫たちのためにできることはやります。」

その他「早く有料化するほうがよい。」「時代だからしょうがないよ。」等さまざまな声を聞かせていただきました。これらの声を今後の活動に生かしながら、今日の活動をこれからの環境保全活動につなげて参りたいと思っています。

## 「昆虫のお花畑」造りのお願い

自然豊かな里山づくり 小泉寿彦

浦野宿の裏山にて、高札場から歩いて数分の所にある遊休荒廃農地山畑を「地域発 元気づくり支援金」を活用し整備するもので、灌木や笹の生い茂った山畑を草原に変えます。

昭和20年代まで残っていた山畑の大きな土手や草刈場（肥料用草生地）で盆花を採ったり、キリギリスを追いかけた草原をイメージし、灌木や笹を除去したあと自然に生えてくる在来種の草を大事に育てます。外来種は除去します。これを基本に彩りを添えるために、何か特色のある山野草、野辺の花を植えて、植物や昆虫など生物多様性のビオトープづくりです。

お願いは、地域在来の山野草（野辺の花）を少量多品種求めています。なお、多数の本数が欲しいものは、クララ、フジバカマ、キキョウ、ナデシコ（カワラナデシコ、ヤマトナデシコ）オミナエシ、ワレモコウなどです。お持ちの方は、お子さんやお孫さんと見学しながら記念に植えに来てください。苗木や種子のご協力も歓迎です。

植えていただく期間は11月と来年3、4、5月です。木の名札に品種名、科名と宜しければ自治会名と氏名を書かせていただきます。

（連絡先：小泉寿彦 電話 31 - 3705）